

算数担当が、算数を教えつつ、いろいろなことを考えてみました。

$\pi=3.141592653\dots$

No.19：言葉の大切さを考えてみた

令和7年10月15日  
墨田区立柳島小学校  
校長 近藤 幸弘  
柳島小学校算数担当

## ●「大切なことは、きちんと言葉にしようね」

私が授業中によく言うことです。「算数なのに？なぜ？」と思われた方も多いのではないのでしょうか。「01 図形の用語」で「算数の専門用語を正しく使わせたい」と結びましたが、このことを具体的に指導すると冒頭の言葉になります。

- ・分数の「下」の数字が…→「分母が…」
- ・「円の周り」の長さが…→「円周の長さが…」
- ・「この」辺と「この」辺が「同じ」…→「辺ABと辺DCの長さが等しい…」

また、このような場面もよくあります。

- ・C「先生、（説明をノートに）書きますか？」 ※C：児童 T：私

T「まずは数式を書きます。数式は言葉ですから。そこに、会話の言葉や図を付け足すと、よりわかりやすくなります。」

こういったことを指導した後に、「大切なことはきちんと言葉にしようね」と言います。

6年「角柱・円柱の体積」（6年生の例ばかりで申し訳ありません）を例にとります。

5年で学習した「直方体・立方体の体積」を「底面積×高さ」と考えることにより、その他の角柱や円柱でも体積を求めることが容易になります。

ここでの説明で意外とあやふやだったのは、「角柱・円柱の『底面』『高さ』の定義」です（ここでは教科書で扱う「底面と側面が垂直な角柱・円柱」を考えます）。

底面：合同で平行な2つの面（直方体・立方体はどの面も底面とできる）

高さ：底面同士の距離（直角マークで示されている）

「どの面が底面？」と聞くと、大体の児童は正しく底面を指すことができます。しかし、「なぜ？」と聞くと、「上と下の面だから」と答えることが多いです。しかし、これだけでは、立体を横にしたときに説明に困ります。「合同で平行だから」と定義に沿って答えなければなりません。同様に、「高さ」を示す（判断する）ことはできても、理由までこたえられる理由はそうはいません。「合同」「平行」「距離」という言葉をきちんとおさえていることも、正確な説明には必要です。

「定義」は言葉で表されます。それに加えて、中学・高校と勉強が進むにつれ、証明問題における「言い回し（書きっぷり）」も重要になってきます。

日頃から「言葉」に敏感になり、「言葉」を大切にしていきたいと、いつも思っています。…ということで、「大切なことは言葉にしようね。いつもご家族に何かしてもらっているのだから、「いつもありがとう」って、ちゃんと言葉にして言うんだよ。」…と、今日も私は、担当している児童に説教をします（笑）。